

基礎学力向上のためのICT機器の活用法

— 日野市と日野第二中の取り組み —

尾形 齊・竹村きよみ

(東京都日野市立日野第二中学校)

1. はじめに

日野市では、早くから教育の重点施策の1つとして、ICTの活用教育を掲げてきました。平成18年度には全教員に1人1台のコンピュータの配置、平成19年度には全小・中学校の校内LANの整備、校務支援システムの完全導入を行いました。基本方針は「市内のすべての小・中学校で、すべての教員がICTを活用した指導を実施できるようにする」ということです。重点施策とした趣旨は、「ICTの活用は生徒の学力向上を図るための効果的な方法の1つであるゆえ、生徒も含め、誰もが日々進歩し続けるICTをしっかりと使いこなさなければならない」というものです。

ICTを活用した授業によって、生徒の授業に対する興味・関心が高まるだけでなく、体験を通して知識が定着するなど、指導法の工夫によってより効果的な生徒の学力の定着が期待できます。また、校務支援システムを導入することにより、校務の情報の共有、効率化、生徒指導の連携等、教育の質の向上を図ることが大きな利点であると考えてきました。

本市ではさらに、文部科学省の平成21年度の「スクール・ニューディール」政策を活用して、全教室に52インチTVを設置し、電子黒板として利用したり、書画カメラを接続したりして、授業でのICT活用を推進してきました。また、ハード面だけの整備だけでなく、ICT推進室を立ち上げ、ソフト面である活用のために、支援員としてメディアコーディネーターを配置し、学校に向いてパソコンやネットワークを活用した効果的な授業のあり方を先生方と共に考案し、授業における支援体制を構築してきました。

このような状況下で、市内の各小・中学校それぞれが校内で研究し、ICTを活用した授業実践を進めています。

2. 本校の取り組み

本校では、重点目標として、「生徒の基礎基本の重視と学力の定着」を推進しています。サブテーマは「ICTを活用した授業を実践し、学習意欲の向上を図る」ことです。そのためにこれまでの3年間、継続して校内研究として、ICTを活用した授業研究を行っており、外部から指導者を招聘し、生徒の学力定着のためのICTの授業研修を行ってきました。

ハード面では、本校は、教科教室型の授業形態をとっています。9クラスの小規模校の利点を活用して、英語科・数学科は3教室、国語科・社会科・理科は2教室、および実技教科にそれぞれの授業教室を配置し、それぞれに52インチTV、パソコンを設置して、いつでも自分の授業でパソコンやインターネットを活用できるように、環境整備を行っています。生徒は教室移動をして授業を受けています。

しかしながら、ICTを活用した授業では、授業を実施する教師の意識が、最も重要な要素です。環境整備に加え、教師それぞれが、ICT活用の利点をしっかりと認識することにより、教材研究が充実したものになると考えられます。

本校では英語科を中心に、5教科ではほとんどICTを活用しています。特に英語科はデジタル教科書を常時活用した授業を実践しています。

以下、本校の英語科におけるICTの活用法について述べます。

3. 指導用デジタル教科書『NEW CROWN デジタルテキスト』を使ってみよう!

デジタル教科書のアイテムは多彩です。

【ムービー】各レッスンのはじめに用意されています。生徒は皆、何が始まるのかとワクワクして画面に集中します。静かな音楽とともに映像が流れてくると、2分弱のその世界に引き込まれていきます。ときには映像を見ながら、ときには映像終了後に生徒とやり取りをしながら本文に進みます。

【ピクチャーカード】Oral Introduction に最適ですが、ほかでも大いに活用しています。例えば、本文1ページを学習したあとの dictation の小テストでは、カードを見せながら本文を聞かせ、書かせたい英文のところで音声を止めます。生徒は、最後に聞こえた英文を書きます。いつ本文が止まるかわからないので、とても集中して聞いています。自動的にカードが次の場面へと自然に切り替わり、本文の英文の音声もつながっていくので、USE Read のような長い文でも、生徒たちの理解を助けることができます。また、復習として reproduction を行うときにも効果的です。カードの一覧を見せておき、生徒たちはペアで練習させ、最後にカードを見ながら、グループやクラスで発表させます。

【フラッシュカード】英語と日本語の組み合わせなどを自由に設定できるので、ランダムに日本語だけを表示することにより、単語テストに活用できます。

4. その他の ICT の活用



新しい文法事項を導入するときには、パワーポイントや動画で自作の教材を用いることが多いです。左は3年生の現在完了(完了用法)を導入するときに使ったものです。写真を見せながら、① He is going to eat a sandwich. ② He is eating it. ③ He has just eaten it. 文字は後から確認するときに出すようにしています。

画像や動画のモデルは本校の教員にお願いしています。こういう意図でこういう場面を、と相談すると様々なアイデアが出てきます。

また、授業中の writing 活動の中で、いい作品は他の生徒たちにもどんどん読ませたいと思っています。口頭での発表では、それを聞く生徒によって理解の差が出ます。いい作品をまとめ、印刷して配布することもあります。その場で生徒の作品を見せたいときには、書画カメラやタブレット型のPCで生徒の作品を撮り、52インチTVにつないで生徒に見せながら解説しています。その作品を見ながらグループで相談し、内容をつけ加えたり、その後のストーリーを作ったりすることもできます。また、スピーチや Show and Tell などの活動のときにも、写真などの見せたいものをクラス全員に見せることができます。これらの機器は、Book 2 LESSON 1 USE Write「春休みの思い出」、LESSON 8 USE Mini-project「世界の国を知ろう」、Book 3 LESSON 5 USE Mini-projectの「日本紹介」などの活動で活用できます。

5. ICT をどう使うか

授業の中でICTを活用するようになって、黒板に向かうことなく、常に生徒の顔を見て授業をすることができるようになりました。また、テンポよく授業を進めることができ、生徒の発話量が増えました。大切なのは、ICTを自分の授業の中の、どの場面でどのように活用していくかということです。機器に振りまわされることなく活用していくためには、生徒にどんな力をつけさせたいのかを考え、まずは「使ってみる」ことです。パソコンが苦手、生徒数が多い、使用環境が整っていないなど、現場にはさまざまな課題があるでしょう。ICTを活用すれば、世界中のものを生徒の目の前に広げられます。CDデッキ、紙のピクチャーカードやフラッシュカードなどの山のような荷物を持って、廊下を歩く労力も軽減されます。今後も英語科教員として、ICTを積極的に自分の授業に取り入れる前向きな姿勢と、生徒たちが生き生きと活動する授業のアイデアを持ち続けたいと思います。